

会報
峠
とうげ

河井継之助記念館
友の会会報
第28号
2020.10

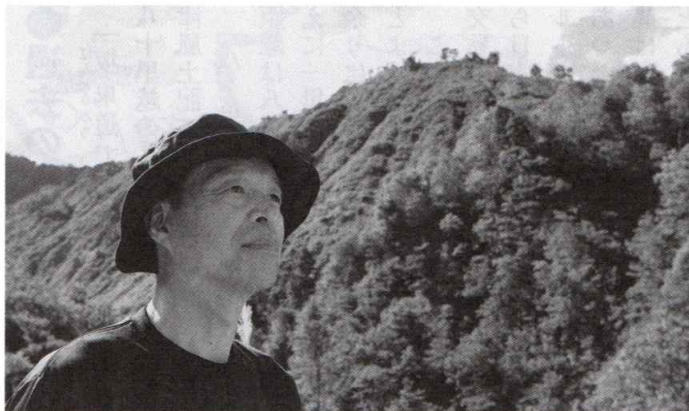
〈編集・発行〉
河井継之助記念館
新潟県長岡市長町1丁目甲1675-1
〒940-0053
Tel.0258-30-1525
Fax.0258-30-1526
頒布価：50円（送料別）

〈編集人〉
荒木法子 恩田富太
堀口晴夫 友の会事務局

〈構成・印刷〉
高速印刷株式会社

私と稲川先生をつないだ八十里越

NPO法人「しただの里」理事長 大竹 晴義



八十里越にて

幼いころ近所の六十歳ほどの老人に、親が八十里越で荷担ぎをやっていたので歩いてみたが、「恐ろしく

長い道のりで命からがらだった」と聞いた。また、父親が晩秋のころナメコ採りに行き遭難しかけて捜索隊と一緒に夜遅く帰ってきたこともあり、私の八十里越は良いイメージはない。

二十代の頃に歴史に目覚め上杉謙信について調べるようになったが河井継之助は知らなかった。TV番組で河井継之助を見たが本人ではなく「八十里腰ぬけ武士の越す峠」この狂句が頭から離れず八十里越に興味をもつ。二十年前にTVの企画で河井継之助の足跡をたどる旅に参加。この時初めて稲川明雄先生と知り合う。この日より稲川明雄の熱烈な信者となる。最初の頃はとんちんかんな質問ばかりで相手にされなかったが「おめさんは八十里の地元なんだ

から歩いて調べれば色んなものが見えてくる。それはおめさんの宝になる」と言葉をいただき、それ以来調査・整備でひたすら歩き続けている。調査・整備といってもひたすら草を刈る、この繰り返しである。NPO法人「しただの里」を立ち上げ八十里越を多くの人に知ってもらいたく、長岡藩の人々が敗走した天保馬道、盲目の旅芸人瞽女が旅した明治馬車道と草藪に埋もれている幾筋もの道を調査・整備、発表の場を求めて「八十里越フォーラム」を開催した。一回目の八十里越フォーラムでの講演を、稲川先生にお願いした時は何度伺っても断られたが、記念館事務局の皆さまからのご協力もあり、なんとか了承いただいた。司会を務めていただく元NHKアナウンサーの国井雅比古さんとの打ち合わせにこぎつけた。その報告ともとへ伺うと、「国井さんは日本の国井だけど俺は長岡の稲川だ、一緒にやれるわけないだろう」と、またもへそをまげられた。後日国井さんと記念館に打ち合わせで伺いましたが、なかなか会ってもらえず事務所へ呼びに行くと「あれは本物か」と、先生は照れていたのでしょうか。食



鞍掛峠

明治新道である切通の先に越後平野が遠く望める。
(幕末の天保古道はこれより3mほど高い場所にあった)

事をしながらの打ち合わせでもほとんど食わずに、笑顔で国井さんに河井さんの話をされていたのが今でも忘れられません。

現在の活動をするにあたり稲川先生からご指導ご鞭撻いただいたことは大きな力となっております、そして稲川先生と知り合えたことを誇りに、これからも楽しく頑張りたいと思います。

最後に、中之島の講演でお母さまの実家の話をされた時の優しい目が今でも忘れられません。

大竹晴義（おおたけはるよし）
プロフィール

三条市（下田地区）の地域おこし活動旧下田地区の活性化を図るNPO法人「しただの里」を設立し、理事長に就任。八十里越を整備する「八十里倶楽部」を運営する。